

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	えるびす		公表日 2026年3月17日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	3	<p>バギーを廊下に出したり、利用者が多い日はベッドを廊下に出したり、ハンモックを分解したりしている。利用者さんに楽しく充実した活動を提供するためには物が多くなる。支出を抑えるために物を使いまわすので物を捨てずにとっておくので多くなりがち。</p> <p>人数によってマットやテーブルの配置、活動内容を工夫している。</p> <p>活動や静養など目的によって工夫して配置を整えているが、十分な広さに至らない事もある(利用人数が多い、動きのある子供さんのいる日)</p> <p>活動内容によっては狭く感じるがテーブルを移動させてスペースの余裕を作っている。</p> <p>利用者が7名にもなると移動の際に他の利用者さんを移動してから通り道を作ったり、それぞれの動きを考えて場所を確保したりと狭さを感じるが、限られた中で工夫してやっている。利用者さん全体の目は届きやすいと思う。</p>	定員が上限だと少し狭く感じる事がある。また中高生が多い日もあり、狭く感じる。そのため廊下にバギーを出す等の工夫はしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		<p>看護師の病欠等により所属の看護師がいない、又は十分でない時は、その旨医療的ケアの児の保護者に伝え、安全な支援を心がけている。</p> <p>職員の休暇に合わせて他部署から協力を得ることで安定した支援を行えている。</p> <p>下校時間やお迎えの時間など一斉に忙しくなる時間があるが、利用者さん一人一人に支援が届くよう他の部署からヘルプに入って頂くなど人員調整されていると思う。</p>	法に基づいて配置しているが、利用者人数によっては少ない時もある。 休みの都合もあるため仕方がないが、看護師が少なく不安な時もある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		ハサミ等危険のある物、利用者さんのバック等の私物、PC等あるスペースには入らないルールを取り決め、テープで視覚的にわかりやすくした。	洗面所は子供やバギーでも使いやすい高さや形のものであれば、なお良いと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	<p>周囲の動きや音で食事等集中できない時はパーテーションをしたり、窓側に場所を取ったりしている。</p> <p>快適であるよう心掛けている。</p> <p>毎日清掃し、心地よく過ごせる環境づくりに努めている。</p>	自力で移動する利用者さんの行動範囲と支援室の大きさが合わないと思う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		<p>相談室などで対応している。</p> <p>感染の恐れ(利用中の体調不良等)がある場合、他の利用が無ければ相談室で隔離している。空いていない時はカーテンやパーテーションを利用。</p> <p>カーテンやパーテーションによってプライベート空間を作ることができ、必要に応じて相談室の利用も可能です。</p> <p>支援に応じてパーテーションの設置やカーテンで仕切って過ごせる場所がある。</p>	

業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		支援後のカンファレンスやケース会議など、情報の共有や改善に向けて意見交換する場が多くある。 自分はまだ入職して4か月で業務改善について参加するには至りませんが、カンファレンスやミーティング、チャットワークを見ても業務改善について検討されている印象を受けています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			保護者会をやっているが、参加者は少ない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日々のミーティングや職員間でもえるびす内ではお互いに意見を言いやすく、業務につなげていける環境になっていると思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		現在、第三者による外部評価は実施しておりません。 小規模法人であることから、人的・財政的資源の優先配分を検討した結果、まずは日々の支援の質向上と職員体制の安定を最優先事項として取り組んでおります。 その代替として、以下の体制により客観性の確保と業務改善を行っております。 ・ 毎年度の自己評価および保護者アンケートの実施・分析 ・ 管理者による定期的な業務点検および改善計画の策定 ・ 法人内他事業所との相互確認・意見交換 ・ 外部研修受講後の内容共有と業務への反映 今後、組織体制および運営基盤がさらに整った段階で、第三者評価の導入についても検討してまいります。 引き続き、透明性のある運営と支援の質の向上に努めてまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		なかなか勤務時間内でジョブモデル等出来にくいですが、研修をいつでもできる環境にある。業務の調整をして時間の中で研修時間を確保して頂いており、本当にありがたいと思う。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			公表はしているが、見直しのタイミングなどシステムがどうなっているのか不明。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		必ずミーティングをしてスタッフ皆で子ども一人一人の今できる最善と思われる支援について話し合う時間が確保されていると思う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		ミーティングをしていることで支援について共有され、利用者さんに関わることができている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3		インフォーマルなアセスメントはされているが、標準化されたツールはない。 フォーマルなものが推奨されているのは把握しているが、まだ着手できていない。 よくわかっておらず、今後勉強していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		毎日のMTで行っている。	

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		季節に合わせた行事を取り入れ、家庭では体験できないことも計画に基づいて支援されている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	支援終了後に勤務している職員のみ振り返りにはなっているので、送りシート、ほのぼの、支援前会議等での共有をしている。気付いたこと、共有したいことは連絡ノートに記載し、翌日のミーティングで確認したり、各自でノートを読み、わからないことは質問して聞くことができる。	パート勤務で帰るため職員全体で打ち合わせ、振り返りが出来ない現状がある。支援前の打合せの際に、前日の振り返りで挙げた内容を共有したり、申し送りノートを読む時間を設け工夫している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			地域交流はなかなかできていない。他は全て行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		直接の連携はあまりないが、ご家族に依頼し主治医に質問してもらっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		説明会などにも参加している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		年に3~4回ずつ発達医療センターのPT,OTに来て頂き助言を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		前年はあった。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		保護者の送迎の時にはその日の様子についてお伝えし、コミュニケーションを図っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			ペアレントトレーニングや兄弟に対する支援には課題がある。家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）について、自分自身これから学習していく必要があると思う。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		放課後等デイサービス提供が個別支援計画のことを指すのであれば○ 支援計画についてのミーティングでも、保護者の思いや子どもの最善の支援を考えられるよう面談で話す内容を考えられていると思う。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		放課後等デイサービス計画が個別支援計画を指すのであれば○	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		法人で筋ジス会に入会している。販売に貢献していると思う（年1回秋頃）	きょうだい同士での交流の機会は設けていない。（ニーズの把握は必要性がある）
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		Instagramや会員誌（年2回）	はあもにいだより等で発信しているが、行事予定の発信は不十分。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		一人一人に応じた伝わる方法（ホワイトボードなど）を考えながら支援されていると思う。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		1日利用時等にホールラウンジで慰問に来て頂き、演奏会等を行っている。	慰問ホールラウンジによるイベントはあるが事業所での行事に地域住民を招待することはほとんどない。（大きな行事を行っていない。）
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		BCP、防災訓練をやっている。 感染対応として防護具着脱の演習を行っている。 法人全体での総合防災訓練と各部署でも月1回程度行われている。	防犯・緊急時対応は職場に即した訓練はされていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		年に2回総合防災訓練（5.11月）。部署内では防災委員を中心に月1回、活動の中で行っている。	えるびすの訓練は現場の日常が想定されているが、法人単位となった時には、もっとあらゆる事態に備えたものが必要と感じる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			家族にどのように説明したか職員に報告説明、周知は徹底されていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		年に2回は行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		義務研修は必ず行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		身体拘束をする対象の利用者様はいないが、組織的に決定されている。	